

狭山市地域福祉推進計画
団体等アンケート調査報告書

平成29年1月

狭山市、社会福祉法人狭山市社会福祉協議会

目 次

第1節 調査の概要	・・・	1
第2節 調査の結果	・・・	2
（1）回答団体等に関する基本的な情報	・・・	2
（2）他団体等との関わりに関すること	・・・	14
（3）市等の地域福祉施策の取り組みに関すること	・・・	18
（4）今後の地域福祉施策の方向性に関すること	・・・	22
（5）地域福祉の推進状況に関すること	・・・	24
（6）自由意見	・・・	26

団体等アンケート調査中間報告

第1節 調査の概要

(1) 調査の目的

狭山市地域福祉推進計画の中間評価にあたり、狭山市民の福祉に関する意識及び潜在的なニーズ等を把握するとともに、今後の地域福祉に関する計画のあり方を検討するための基礎資料とすることを目的にアンケート調査を実施しました。

なお本報告は、単純集計結果をまとめた経過的報告であり、今後、クロス集計等、必要な分析を加えた最終報告を行う予定です。

(2) 調査対象団体等

188 団体（市内に事務局等を置く福祉関係団体・事業者）

(3) 調査方法

アンケート調査は、郵送配布・郵送回収

(4) 調査期間

アンケート調査

平成28年10月1日（土）から31日（月）まで

(5) 回収結果

- ① 配布数：188 票
- ② 有効回収数：112 票
- ③ 回収率： 59.57%

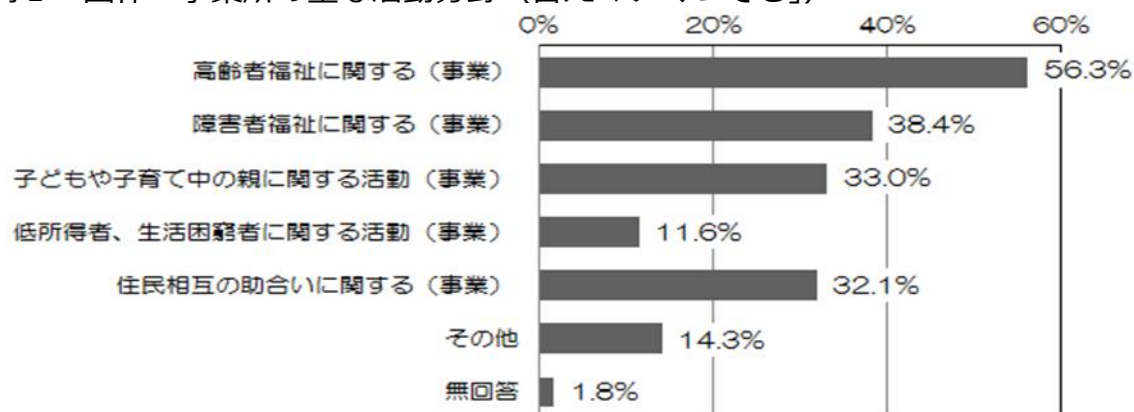
(6) 注意事項

- ① 調査結果の比率は、その設問の回答者数を基数として、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。四捨五入の関係で、合計が100%にならない場合があります。
- ② 複数回答形式の場合、回答比率の合計は通常の100%を超えます。
- ③ 選択肢の語句が長い場合、本文や表・グラフ中では省略した表現を用いることがあります。

第2節 調査の結果

(1) 回答団体等に関する基本的な情報

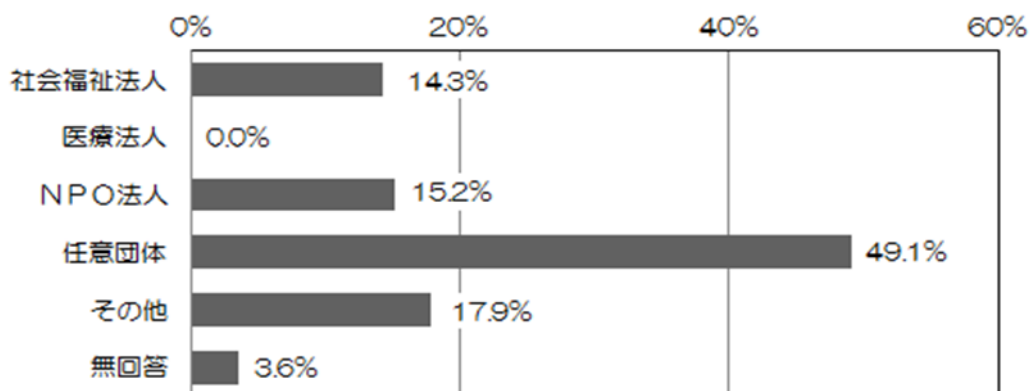
問1 団体・事業所の主な活動分野（答え「いくつでも」）



「高齢者福祉に関する活動（事業）」（56.3%）がもっとも高く、次いで「障害者福祉に関する活動（事業）」（38.4%）、「子どもや子育て中の親に関する活動（事業）」（33.0%）の順となっています。

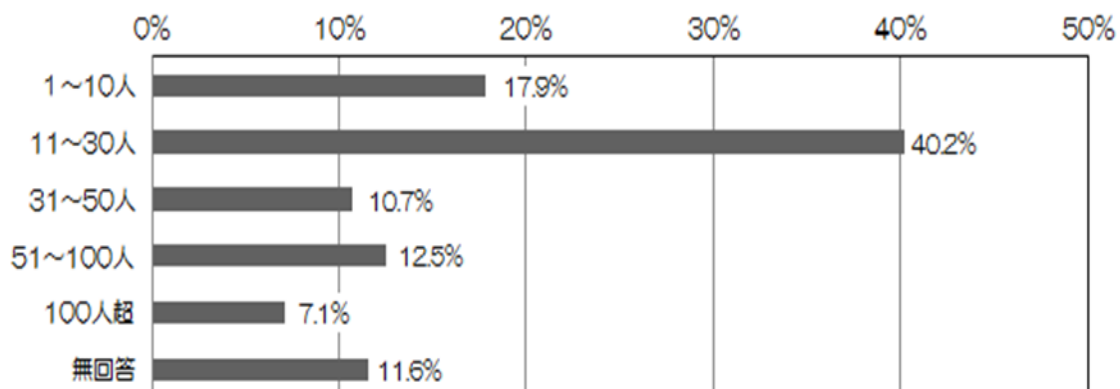
前回調査では、「高齢者福祉に関する活動（事業）」、「子どもや子育て中の親に関する活動（事業）」、「障害者福祉に関する活動（事業）」の順になっています。

問2 団体・事業所の運営主体



「任意団体」（49.1%）がもっとも高く、法人格を持った団体は29.5%となっています。

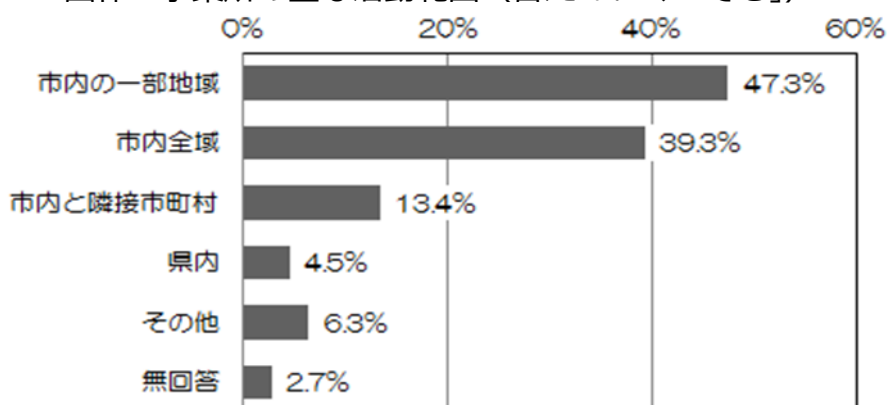
問3 団体・事業所の構成員数



「11~30人」(40.2%)がもっとも高く、構成員30人以下の団体・事業者が全体の58.1%となっています。

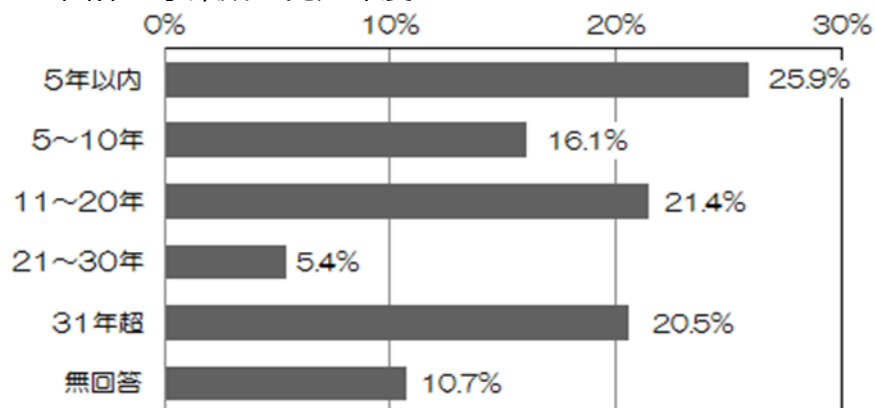
前回調査では、構成員30人以下の団体・事業者が全体の70.1%ありました。

問4 団体・事業所の主な活動範囲 (答え「いくつでも」)



「市内の一部地域」(47.3%)がもっとも高く、次いで「市内全域」(39.3%)の順となっています。

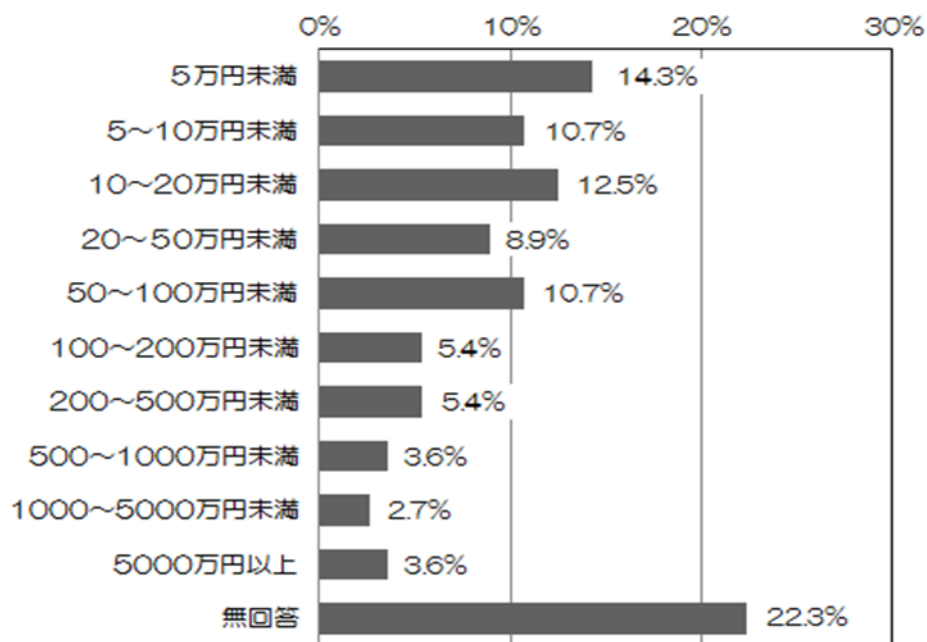
問5 団体・事業所の発足年度



「5年以内」(25.9%)がもっとも高く、発足してから10年以内の団体・事業所が全体の42.0%となっています。

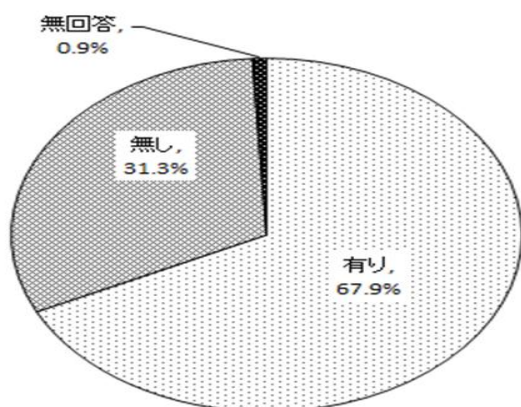
前回調査では、発足してから10年以内の団体・事業所が全体の52.9%ありました。

問6 団体の財政規模(年間予算)



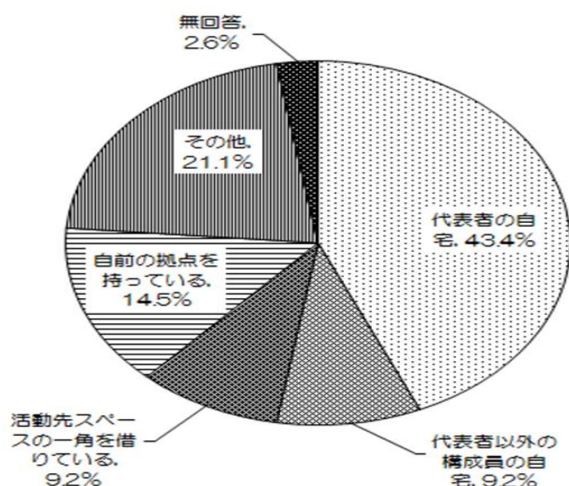
「5万円未満」(14.3%)がもっとも高く、次いで「10~20万円未満」(12.5%)と、年間予算50万円未満の団体・事業所が全体の46.4%となっています。

問7 団体の事務局の有無



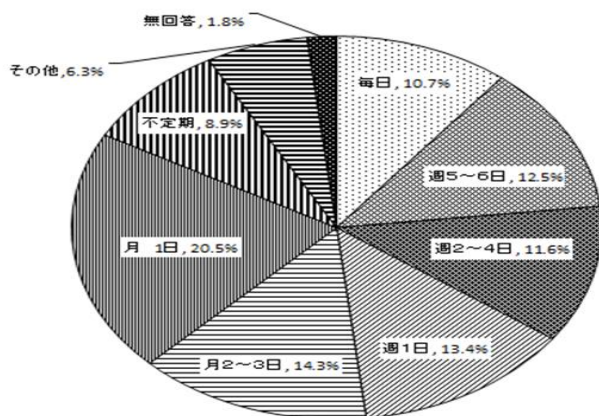
「事務局有り」が全体の67.9%となっています。

問8 事務局の場所



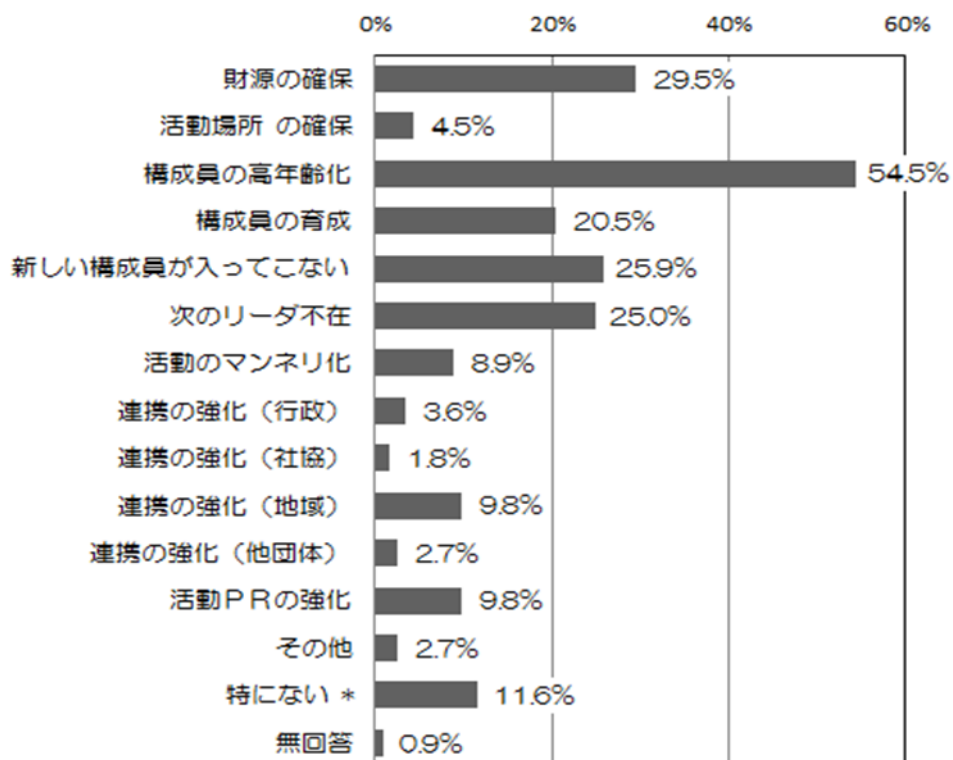
「代表者の自宅」(43.4%)がもっとも高く、「代表者以外の構成員の自宅」(9.2%)を含めて、「団体の構成員の自宅」が全体の52.6%となっています。

問9 活動頻度



「月1回」(20.5%)がもっとも高く、次いで「月2~3回」(14.3%)、「週1日」(13.4%)と、「週1日」以下の活動頻度が全体の48.2%となっています。

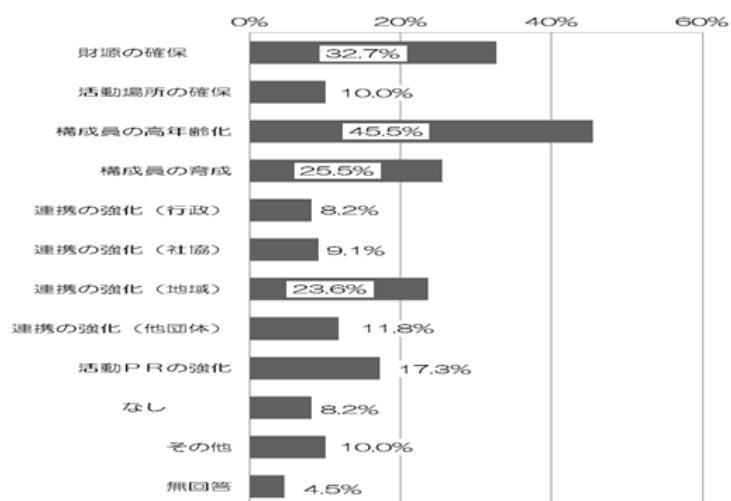
問 10 活動上での課題、困っていることなど（答え「3つ以内」）



「構成員の高年齢化」（54.5%）がもっとも高く、次いで「財源の確保」（29.5%）、「新しい構成員が入ってこない」（25.9%）、「次のリーダー不在」（25.0%）となっています。

前回調査では、「構成員の高年齢化」、「財源の確保」、「構成員の育成」「連携の強化（地域）」の順になっています。

《参考》 前回調査の回答結果



問 11 活動上での課題、困っていることを解決するために、どのような対応をされていますか。ご自由にご記入ください。(自由記述)

主な意見

- 自治会との連携で、資金援助が得られるようになった。
- 補助金は、1年毎で次年度の確約もないので、長期の計画が立たない。
- 民間企業の助成金に応募している。
- 参加者・スタッフともに参加費を支払うことで、活動費としている。
- 活動内容をPRして、資金協力者を募集している。
- 経費の効率的使用をすることで、経費節約をしている。
- 資質向上のため、学習会・研修会を実施している。
- 構成員同士で相談をし、一緒に活動をしているのが心強い。
- 新しい人にも様々な役割を与え、色々な挑戦をしてもらうことで、団体への帰属意識を高めている。
- 会員による声掛けや、一本釣りにて人材を確保している。
- 次のリーダー役が不在。
- ボランティア精神で活動しているが、時間などの負担が大きい。
- 参加者が当日にならないとわからないので、準備上で困る。
- 会場探しのため、大勢の構成員が協力して確保している。
- 備品の老朽化や破損が目立つようになってきたが、修理して使っている。
- ブログ・フェイスブックなどSNSでの活動内容のPRをしている。
- 自治会広報の活用をし、活動のPRをしている。
- 地域の枠を超えた様々な活動を通して、日頃からの顔の見える関係づくりに努めている。
- 地域の団体や自治会と連携をしている。
- 手作り品を作っているが、活動にあたってのネタ切れで困ることがある。
- 帰りぎわの参加者の笑顔が嬉しい。
- 無理をしないで、現状維持を保つので精一杯である。

① 財源に関すること

ア. 補助金・助成金に関すること

<ul style="list-style-type: none">● 県の大会は遠方の市体育館の為、<u>移動交通費を助成金や寄付等でまかなっています。</u>● 今年 9 月スタートのグループですが、<u>自治会との連携で次年度より資金援助が得られる</u>予定です。● 助成金の申請、市内他団体の情報収集。● すべてがボランティアであり今後の活動に先細りが見えて来ています。助成金等、額は少額でもかまわないが、<u>もう少し活動のフォローが欠けているのでは</u>と思う。活動団体のフォローは少しも見られない。	<ul style="list-style-type: none">● 市の補助金は、1年毎で<u>次年度の確約もないので、長期の計画が立たない</u>旨機会あるごとに伝えている。● 民間企業の助成金事業にも応募している。● 補助金の確保。● あらゆる分野の<u>助成金情報を各団体へ提供してほしい。</u>● 助成金がH28年度第1期分をもって終了となり参加者、スタッフの活動参加費のみで運営していかなければならなくなっています。今後、<u>運営費の負担をどう捻出するか</u>考慮中です。
---	--

イ. 自主財源に関すること

<ul style="list-style-type: none">● 財源として<u>参加費300円</u>を徴収している。● 財源無し・・・<u>協力員、対象者</u>で負担。● <u>活動内容を広報等で告知し</u>、財源の確保。● 「広報誌」に活動内容を情報として流し、<u>資金協力者募集。</u>	<ul style="list-style-type: none">● 芋煮会を開催して<u>収益金を財源にした。</u>● 財政的に苦しく<u>フリーマーケット</u>への出店や<u>黄色いレシートキャンペーン</u>などに参加し、なんとか活動を続けています。● ①. 銀行融資 ②. 収益事業
---	--

ウ. その他

<ul style="list-style-type: none">● <u>経費の効率的</u>使用。消耗品の節約、バザーなどで資金確保。	<ul style="list-style-type: none">● <u>経費を削減中</u>、但し利用者に満足して帰って頂ける内容にすることが難しい。
--	--

② 人材に関すること

ア. 人材育成に関すること

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none">● 構成員の資質向上の為の<u>学習会を毎月実施している。</u>● ①各種の助成金確保に尽力● ③～⑥常時サービス提供者の募集と<u>研修会等の実施</u>● 構成員が高齢化しているので若い人のグループ30～40代のグループを立ち上げて5年目ですが、<u>子育て仕事等を持ちながらの参加は大変そう</u>です。なかなか会員増には広がっていきませんが、種まきは大切かと思い、<u>先輩達が大らかな気持ちで見守っています。</u>● 研修の実施。● <u>同土で相談、一緒に活動していく。</u> | <ul style="list-style-type: none">● 子ども達（小・中学生）との交流の機会を持つよう努力中。<u>構成員の意識改革と人材確保、活動への参加意識向上。</u>● 学齢期（幼～小～中～高）の子を持つ若い親の会員を増やすには、療養・教育に関する勉強会も随時開催するが、これからは親への「<u>家族支援</u>」を考えて<u>やった方が良いのでは</u>と考えています。※育成会の「<u>家族支援プロジェクト</u>」を利用。（ワークショップ形式のもの）● <u>新規入会者へ様々な担いを与え、色々な挑戦をして頂いており、本人の成果や育成に繋がっております。</u> |
|--|--|

イ. 新たな人材の勧誘や発掘に関すること

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none">● 地区で推薦委員会を設置して、<u>各戸にチラシをいれている。</u>● 次期リーダーとして自治会役員、定年退職者を<u>一本釣りで説得。</u>● <u>会員の声掛けにより新規入会者があるが、高齢者の退会も目立つ、新会員の育成に力を入れている。</u>● <u>自治会の協力により、広報・ポスター掲示・資金援助、民生委員の全面的協力により新規加入見込みあり。</u>● 求人早く出す。 | <ul style="list-style-type: none">● 男性のボランティア希望者がいません。<u>力仕事があるので、男性の社会参画があると助かるのですが。</u>● スタッフの高齢化を見込み、<u>新規スタッフの応募を口込みで行っている。</u>● 会員の高齢化は当然であり、<u>新規会員の参加促進のため、活動者養成講座修了者に呼びかけて、少しずつ協力会員を確保している。</u>● 「対話の場」参加者より新しいコアメンバーを募っている。
(次のページに続きます) |
|--|--|

<ul style="list-style-type: none"> ● <u>新しいボランティア募集・育成、社協専門職の育成。</u> ● <u>65歳以下くらいの新会員を獲得して、その育成を図る。</u> ● <u>女性会員が少ないので募集</u>しています。 ● 市や社協などが主催するイベントで団員募集のチラシ配布。活動内容を写真や説明文のパネルを展示しています。(チラシを見て入団を・・・という人は今まで一人もいません)団員が友人等を勧誘しています。 ● <u>新規職員の確保には学校への働きかけやホームページを活用して求人を出している。</u>育成については法人単位、事業単位での研修を積極的に実施している。 ● <u>構成員が高齢化しています。知人などに声かけしたり、参加者にも参加できる人を募っています。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>立上げから4年を経過し地域に段々と認知されつつある</u>と思います。主に活動している構成員は<u>年金の受給者</u>であり、少ない手当で協力を頂いております。反面、<u>後継者(若い人)がいない</u>。このような活動は、これからも元気な高齢者が困っている高齢者に手を差し伸べていくことになるんだろうと考えます。 ● <u>原点(設立当初の趣旨の再確認)回帰と新しい利用者に入会のお誘いをするようにした。</u> ● <u>新構成員を口コミで募集</u>している。 ● <u>クチコミ</u>で新しい構成員の確保。 ● <u>構成員の交代・補充を自治会役員に申し入れていましたが、なかなか困難な状況です。</u> ● <u>新規会員拡大のため、個別訪問を行い、事業案内を行っ</u>ています。
--	--

ウ. 後継者育成に関すること

<ul style="list-style-type: none"> ● <u>男性会員が1名で代表となり、次のリーダーの人選に苦慮</u>している。 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>次のリーダー役を募集</u>しています。 ● <u>後継者を知人など通じて探</u>している。
--	---

エ. 他団体との協力に関すること

<ul style="list-style-type: none"> ● <u>すこやか推進委員さんや有志の方のお手伝いがとても心強い。</u>身近な方との連携を➤ 	<p>災害時の共助・隣助に繋げられるよう努力中です。</p>
---	--------------------------------

オ. 活動への負担感に関すること

<ul style="list-style-type: none">● 予算が少ないため<u>スタッフはボランティア精神をもって取り組んでいます</u>。出勤をしなくてもやる事が多く、<u>私的な時間を割かないと色々な意味で追いつきません</u>。	<ul style="list-style-type: none">● <u>協力員の高齢化・・・準備、当日の接待等に負担を感じている</u>。
--	--

カ. その他

<ul style="list-style-type: none">● <u>高齢化は否めない現実です。無理をせず現状維持を保っております</u>。● <u>協力員も対象者も高齢化！会食会や茶話会に参加したくても身体的な理由等で参加できない方には配食（お弁当等）をさせて頂き、<u>顔を見ながらのコミュニケーションを心がけている</u>。</u>● <u>催事への参加者の減少</u>。	<ul style="list-style-type: none">● <u>障がい者を今まで親が面倒見ていたことが高齢になってきたので、出来なくなったという会員の話がこのところ出て来ている。今から急いで本人たちを支援・サポートしてくれる様な支援体制（人材を含む）づくりを進めなければと</u>考えている。（具体的にはまだですが）● <u>会員就業先の新規開拓と行政への補助金確保の要望活動、会員募集説明会の拡大</u>。
---	--

③ 場所に関すること

<ul style="list-style-type: none">● <u>会員のレベル向上、活動場所（施設）の開拓</u>。● <u>活動場所確保のため、出向いで活動している</u>。	<ul style="list-style-type: none">● <u>市内、他市の会場探しのため、全会員が協力して確保している</u>。
---	--

④ 機材・物品に関すること

<ul style="list-style-type: none">● <u>発足当初に購入した備品に老朽化や破損が多いが自治会に要望して改善しつつある</u>。	<ul style="list-style-type: none">● <u>用具の再生、修理</u>。
---	--

⑤ 情報に関すること

<ul style="list-style-type: none">● <u>情報発信の内容・頻度を高めている。</u>● <u>内部研修、外部研修へ参加、交流会、ブログ、フェイスブックの活用。</u>● <u>社協日より「ふれあい」に募集を出した。</u>● <u>自治会広報の活用・会員の口コミPR。</u>● <u>⑫. Web site の強化、コミュニケーション活動、理事各自の広報活動。</u>● <u>自治会の回覧に合わせてチラシを入れてもらう。</u>	<ul style="list-style-type: none">● <u>自治会内での広報活動。</u>● <u>毎月の予定表の印刷、メール、HPなどで広報活動をしている。</u>● <u>可能な方法を見つけて、PRしている。</u>● <u>活動のマンネリ化を打開するため、研修などに参加し、新しい情報・新しい交流を求め精進している。</u>● <u>市広報などで会の行事等について宣伝してもらいたい。</u>
---	--

⑥ 他団体等との連携に関すること

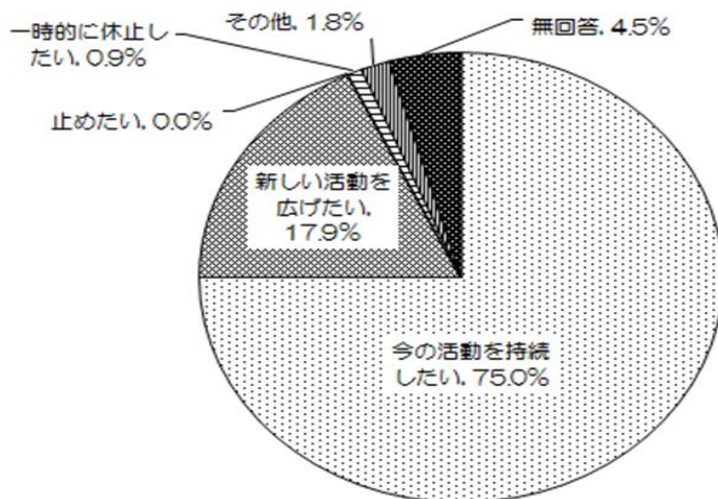
<ul style="list-style-type: none">● <u>地域自治会を通じた新しい若い世代に参加してもらう対応を考え活動の裾野を広げて行く事を考える。</u>● <u>連携のための組織強化。</u>● <u>地域の団体や自治会と連携を取っている。</u>	<ul style="list-style-type: none">● <u>地区内諸団体が地域の枠を超えて「まちづくり事業」に参加し、日頃から顔の見える関係づくりに努めている。</u>● <u>活動のマンネリ化に対して、本年度は小学校と協賛して事業を行う予定です。</u>
---	--

⑦ その他

<ul style="list-style-type: none">● <u>このサロン活動に気軽に参加出来る様、声掛けをしている。経年するとメンバーが固まってしまう、外の人が入り難いことが起きやすいのでそうならない様に注意している。</u>● <u>困ったときは、社協ボランティアセンターの担当者に相談する。</u>● <u>高齢者で認知症の方の対応。</u>	<ul style="list-style-type: none">● <u>民生委員は地域福祉を仕事にしておりますが、本人がやりたいと手を挙げて出来ることではないのに、他のボランティア団体と同一視されるのは不本意です。詳しく知りたければ福祉課に聞いていただければ分かると思います。</u>● <u>対策を模索中。 (次のページに続きます)</u>
---	---

- 新しいことへの取組拒否については、資料をもとに説明しているがなかなかうまくゆかない。
- 皆さんが参加しやすい行事を計画している。
- 参加者が当日にならないとわからないので、準備上、困ります。多めに準備しておくしかありません。
- 毎月1回手作り品を簡単なものを作っていますが、時々種きれがあり困ることがあります。外出時に見ついたり友達に教えてもらったりしながら続けてこられました。1回で仕上がらないときは手助けして製品として仕上げてもらっています。帰りぎわの参加者の笑顔に喜んでいます。

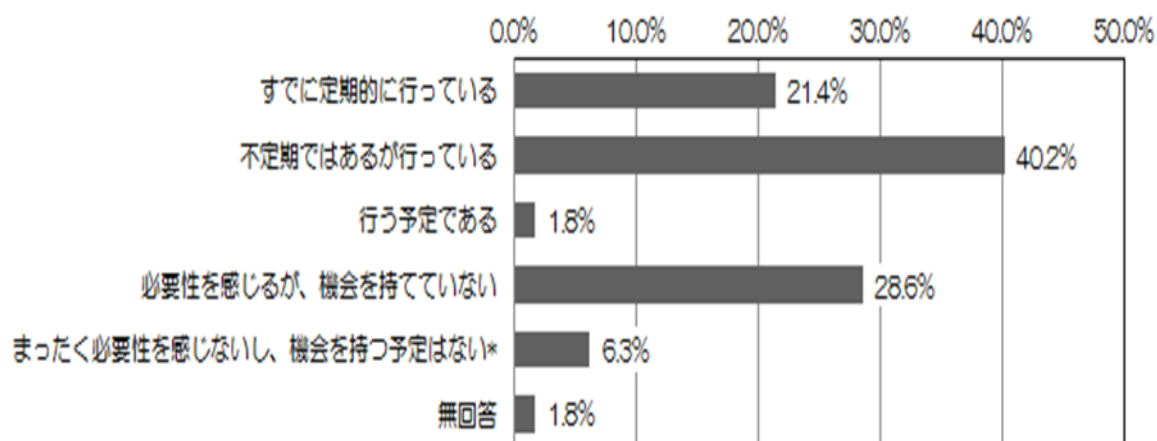
問 12 今後の活動予定



「今の活動を継続したい」（75.0%）と「新しい活動を広げたい」（17.9%）を合わせて、活動を継続・発展したい団体・事業所が全体の92.9%あります。

(2) 他の「機関・団体・事業所等との関わり」

問 13 他の団体・事業者との勉強会や意見交換会、交流等の状況

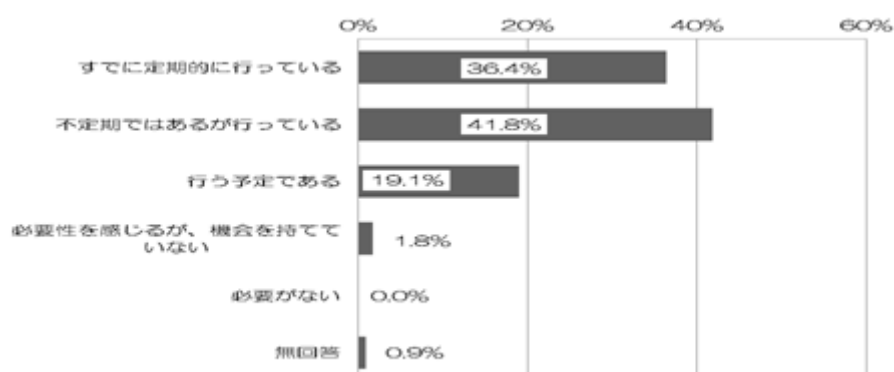


「不定期ではあるが行っている」(40.2%) がもっとも高く、「すでに定期的に行っている」、「不定期ではあるが行っている」と何かしらの形ですでに行っている団体・事業所が全体の 61.6% となっています。

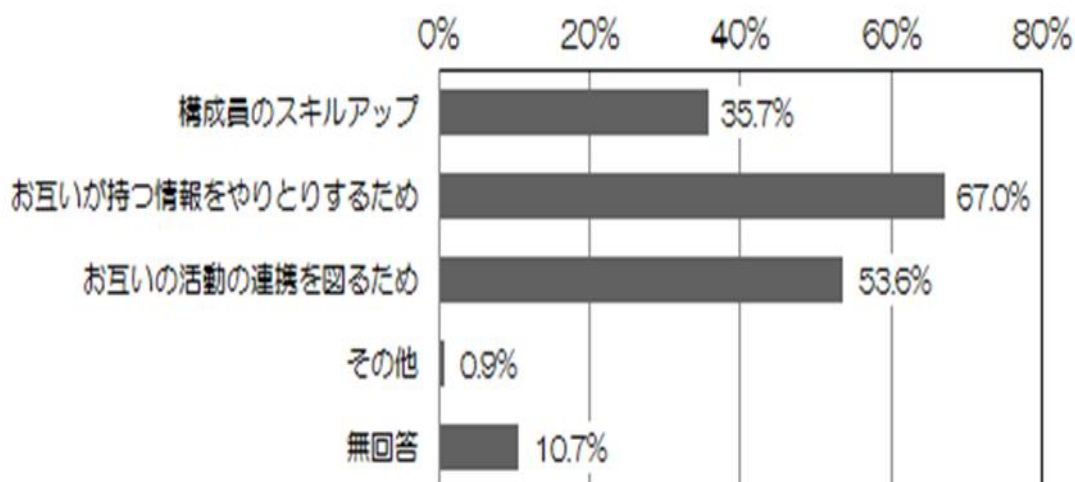
前回調査では、何かしらの形ですで行っている団体・事業所が全体の 78.2% ありました。

前回調査と比べて、「必要性を感じているが、機会を持っていない」が大幅に増えています。

《参考》 前回調査の回答結果



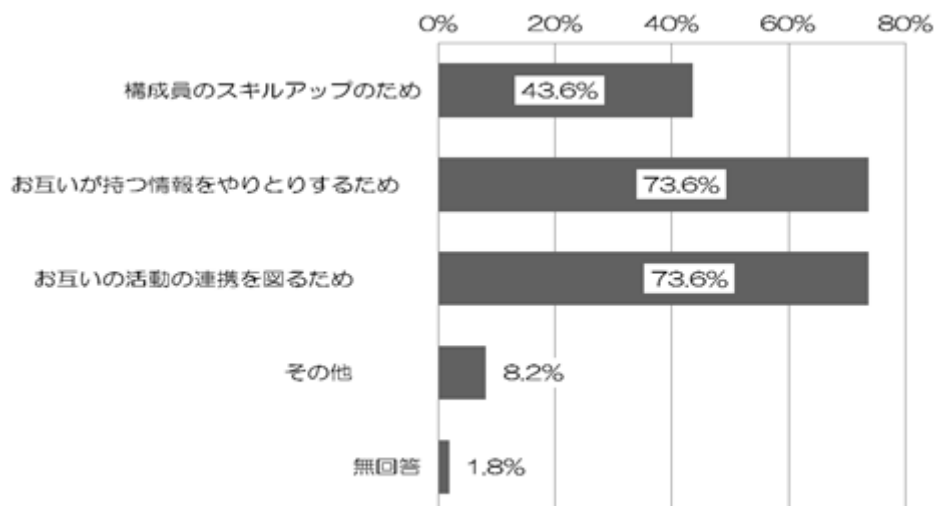
問 14 他の団体・事業者との交流を行う目的は何ですか。(答え「いくつでも」)



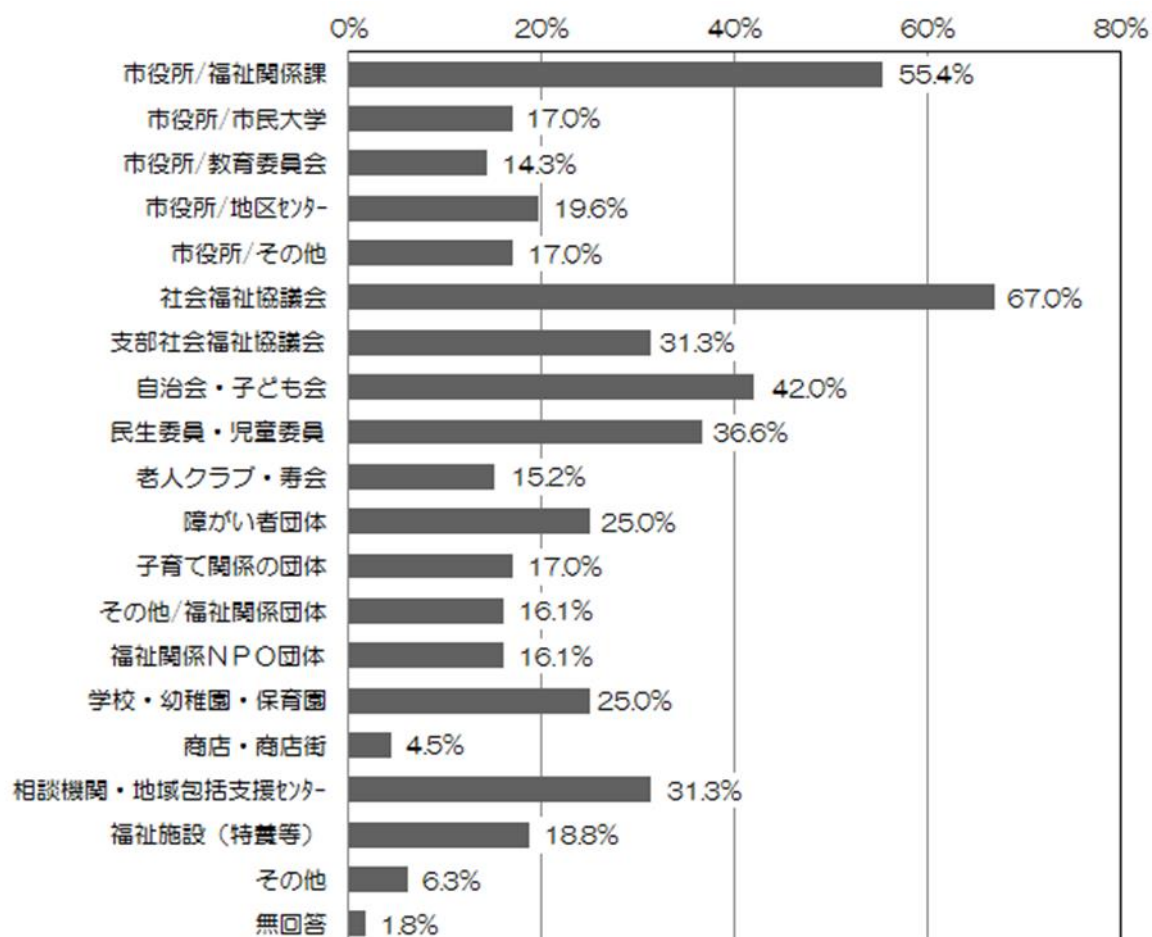
「お互いが持つ情報をやりとりするため」(67.0%)がもっとも高く、次いで「お互いの活動の連携を図るため」(53.6%)が高くなっています。

前回調査では、「お互いが持つ情報をやりとりするため」と「お互いの活動の連携を図るため」が約7割の回答でした。

《参考》 前回調査の回答結果



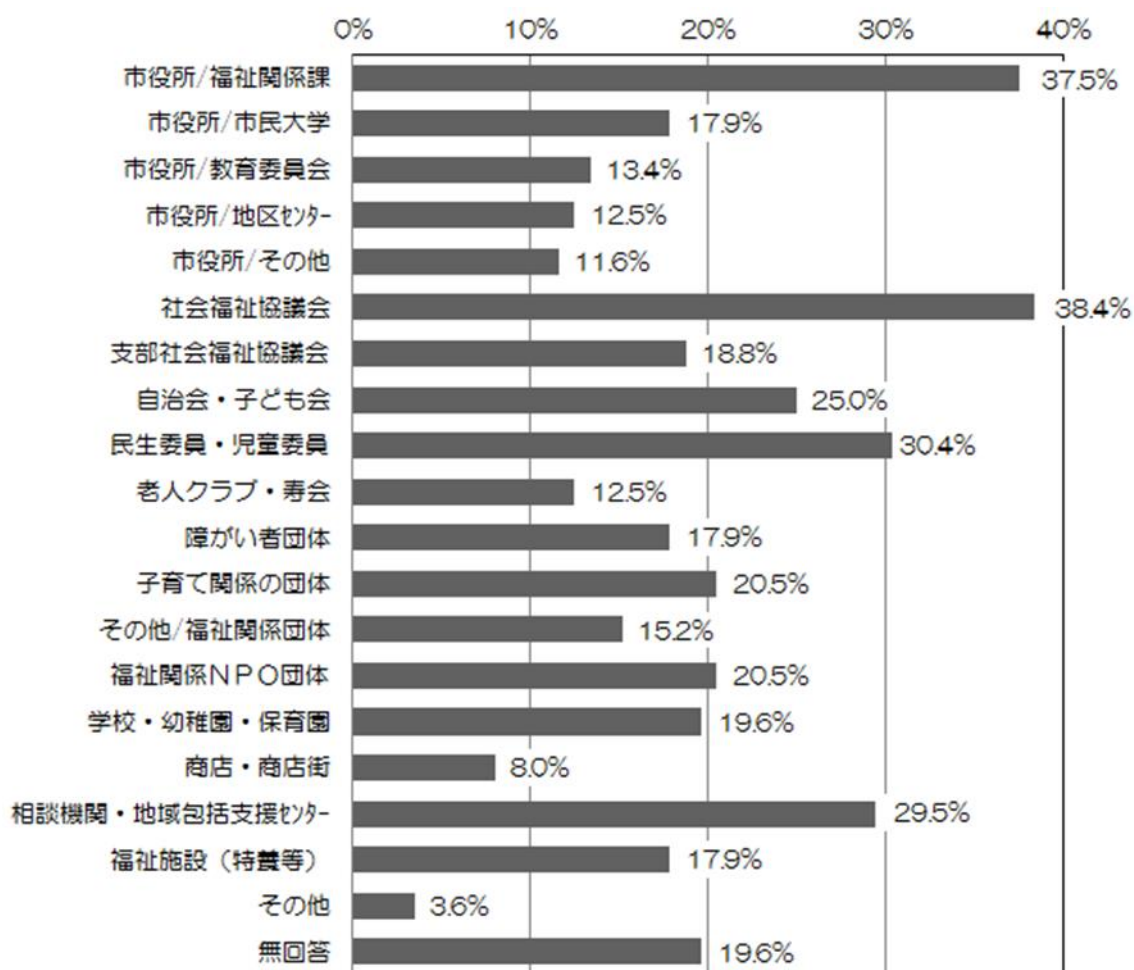
問 15 貴団体・事業者では、現在、どのような機関・団体・事業所等と関わりがありますか。関わりがある場合は、その内容も教えてください。(答え「いくつでも」)



現在、関わりのある機関・団体・事業所等としては、「狭山市社会福祉協議会」(67.0%)がもっとも高く、次いで「市役所(福祉関係課)」(55.4%)、「自治会・子ども会」(42.0%)、「民生委員・児童委員」(36.6%)の順となっています。

前回調査では、「狭山市社会福祉協議会」、「市役所(福祉関係課)」、「民生委員・児童委員」、「自治会・子ども会」の順になっています。

問 19 貴団体・事業者では、今後、どのような機関・団体・事業所等と関わりを持ちたいですか。(答え「いくつもで」)

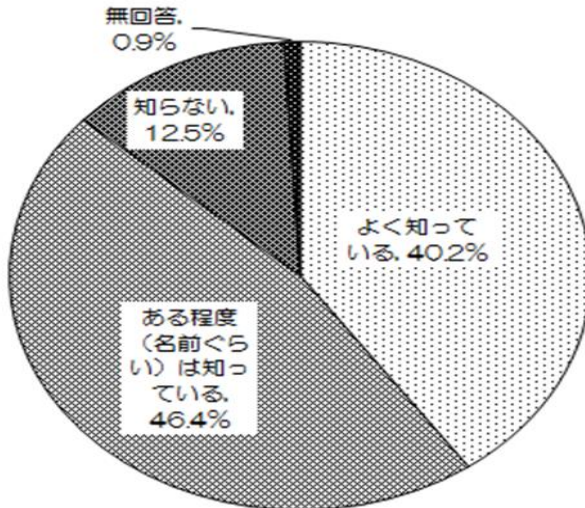


今後、関わりを持ちたい機関・団体・事業所等としては、「狭山市社会福祉協議会」(38.4%)がもっとも高く、次いで「市役所(福祉関係課)」(37.5%)、「民生委員・児童委員」(30.4%)、「相談機関・地域包括支援センター」(29.5%)の順となっています。

前回調査では、「市役所(福祉関係課)」、「狭山市社会福祉協議会」、「民生委員・児童委員」、「自治会・子ども会」の順になっています。

(3) 市などが行っている「地域福祉に関する取り組み」

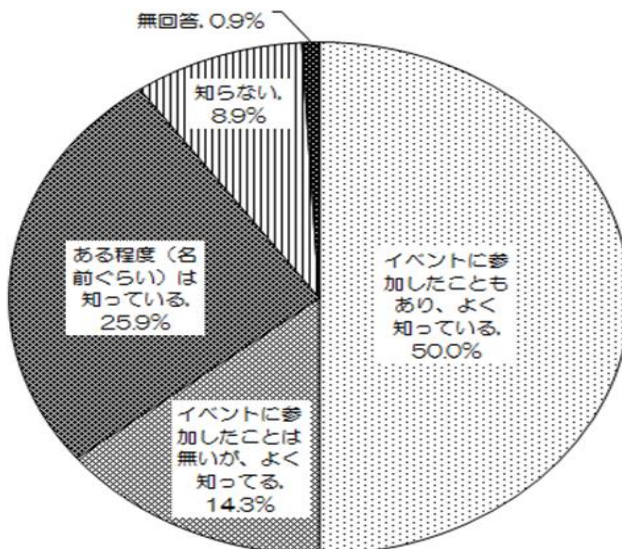
問 17 市と社会福祉協議会が策定した「狭山市地域福祉推進計画」を知っていますか。



「よく知っている」「ある程度(名前ぐらい)は知っている」と回答された方が全体の86.6%となっています。

前回調査(狭山市地域福祉計画の認知度)では、「よく知っている」「ある程度(名前ぐらい)は知っている」と回答された方は全体の83.6%でした。

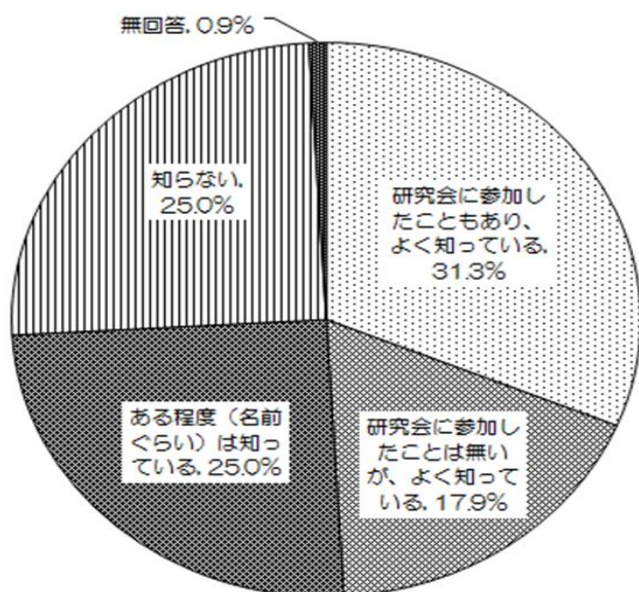
問 18 市と社会福祉協議会が地域福祉の推進を図るために行っているキャンペーン「地域のつながりと支え合いを考える」を知っていますか。



「イベントに参加したこともあり、よく知っている」と回答された方が全体の50.0%となっています。

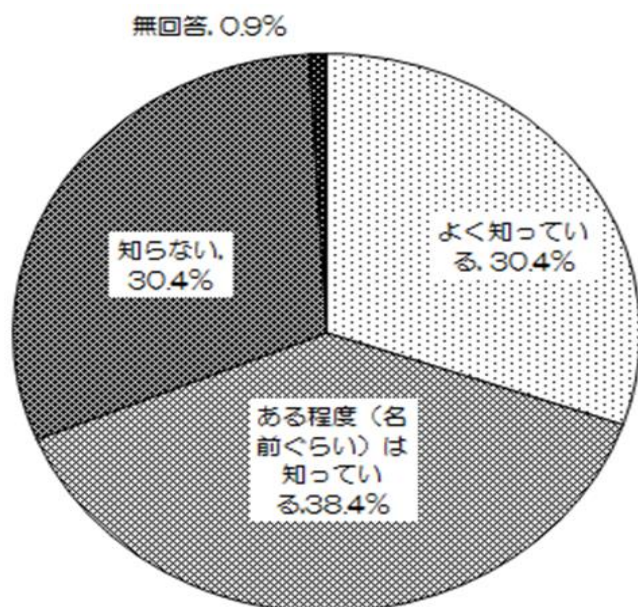
前回調査では、「イベントに参加したことがある」(25.5%)と、回数を重ねることで参加者が増えています。また、「知らない」(17.3%)と回答した方も減少しており、キャンペーンが認知されてきています。

問 19 市と社会福祉協議会が開催する「地域福祉活動推進研究会」を知っていますか。



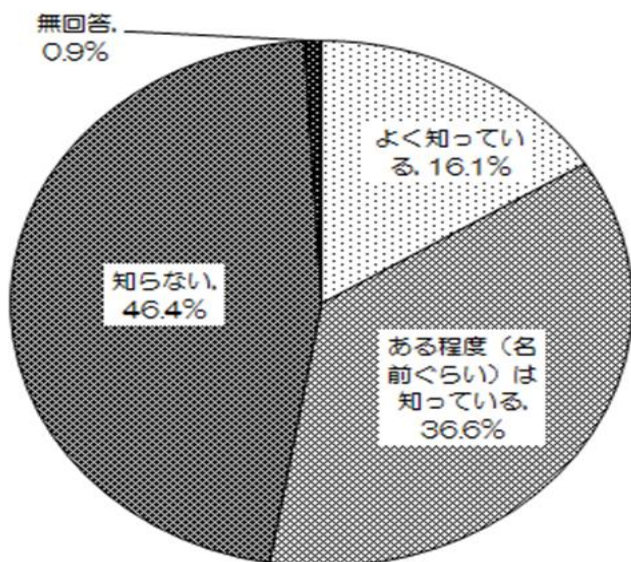
「研究会に参加したことがあり、よく知っている」と回答された方が全体の 31.3%となっています。また、参加をしたことがなくても、名前ぐらいは知っている方を含めて、研究会を知っている方が全体の 74.2%となっています。

問 20 インターネットの狭山市ポータルサイト「さやマルシェ」上において、地域関係団体・事業所が検索できる「ふれあいネット」を知っていますか。



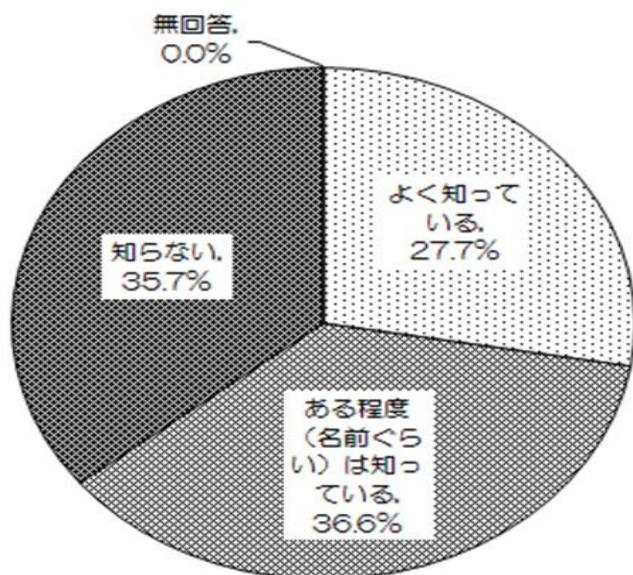
「よく知っている」「ある程度(名前ぐらい)は知っている」と回答された方が全体の 68.8%となっています。
 前回調査では、名前ぐらいは知っている方も含めて、知っている方が全体の 72.8%でした。

問 21 市が試行的に推進している「要援護世帯総合支援体制（トータルサポート体制）」を知っていますか。



「よく知っている」「ある程度（名前ぐらい）は知っている」と回答された方が全体の 52.7%となっています。

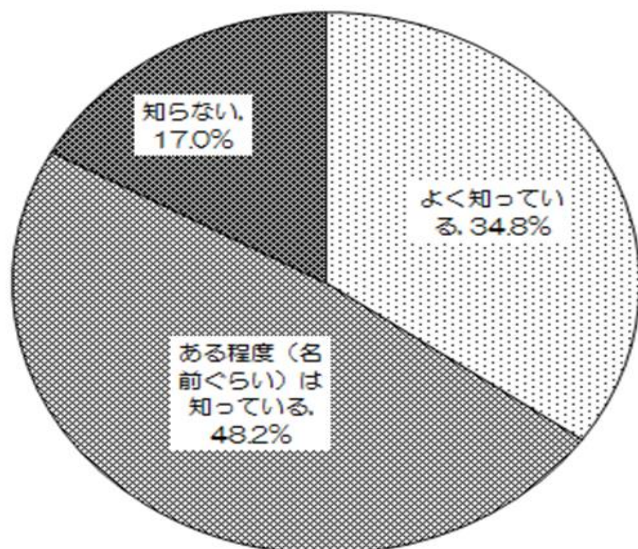
問 15 主に学校が取り組んでいる、児童・生徒に対する福祉教育を知っていますか。



「よく知っている」「ある程度（名前ぐらい）は知っている」と回答された方が全体の 64.3%となっています。

前回調査では、名前ぐらいは知っている方も含めて、知っている方が全体の 62.7%でした。

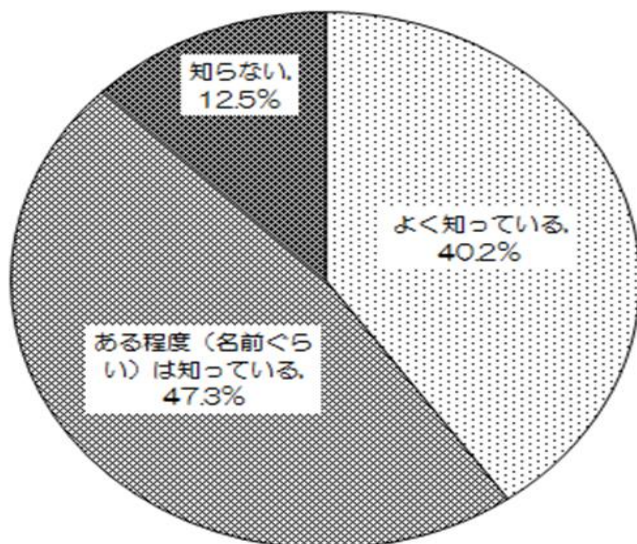
問 16 狭山市社会福祉協議会が取り組んでいる「さやま成年後見センター」を知っていますか。



「よく知っている」「ある程度(名前ぐらい)は知っている」と回答された方が全体の83.0%となっています。

前回調査では、名前ぐらいは知っている方も含めて、知っている方が全体の76.3%でした。

問 17 狭山市社会福祉協議会が取り組んでいる「災害ボランティアセンター」を知っていますか。

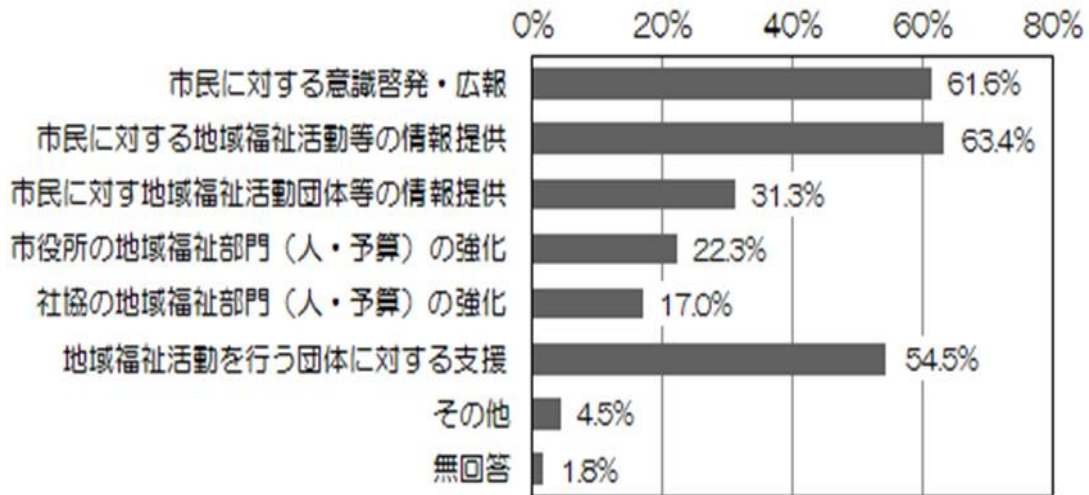


「よく知っている」「ある程度(名前ぐらい)は知っている」と回答された方が全体の87.5%となっています。

前回調査では、名前ぐらいは知っている方も含めて、知っている方が全体の74.6%でした。

(4) 今後の「地域福祉施策」の方向性

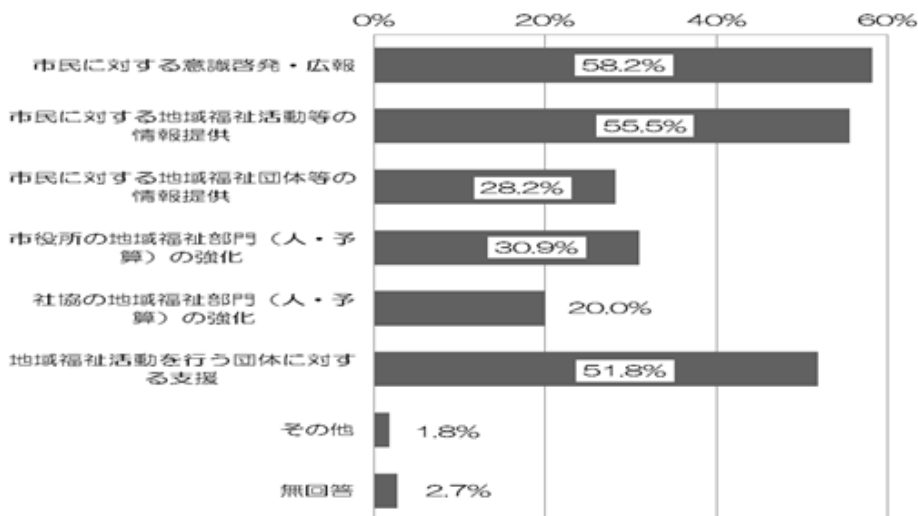
問 25 市民が地域福祉活動に積極的に参加いただくためには、市や社会福祉協議会はどのような取り組みを行うことが必要だと思いますか（答え「3つ以内」）



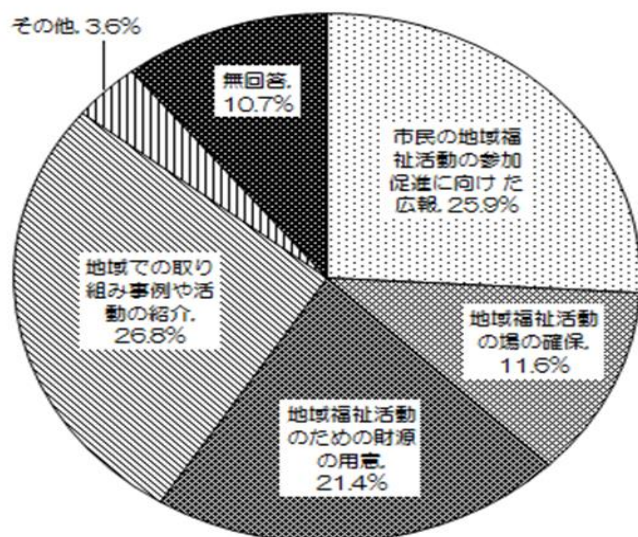
「市民に対する地域福祉活動等の情報提供」（63.4%）がもっとも高く、次いで「市民に対する意識啓発・広報」（61.6%）、（54.5%）の順となっています。

前回調査では、「市民に対する意識啓発・広報」、「市民に対する地域福祉活動等の情報提供」、「地域福祉活動を行う団体に対する支援」の順でした。

《参考》 前回調査の回答結果



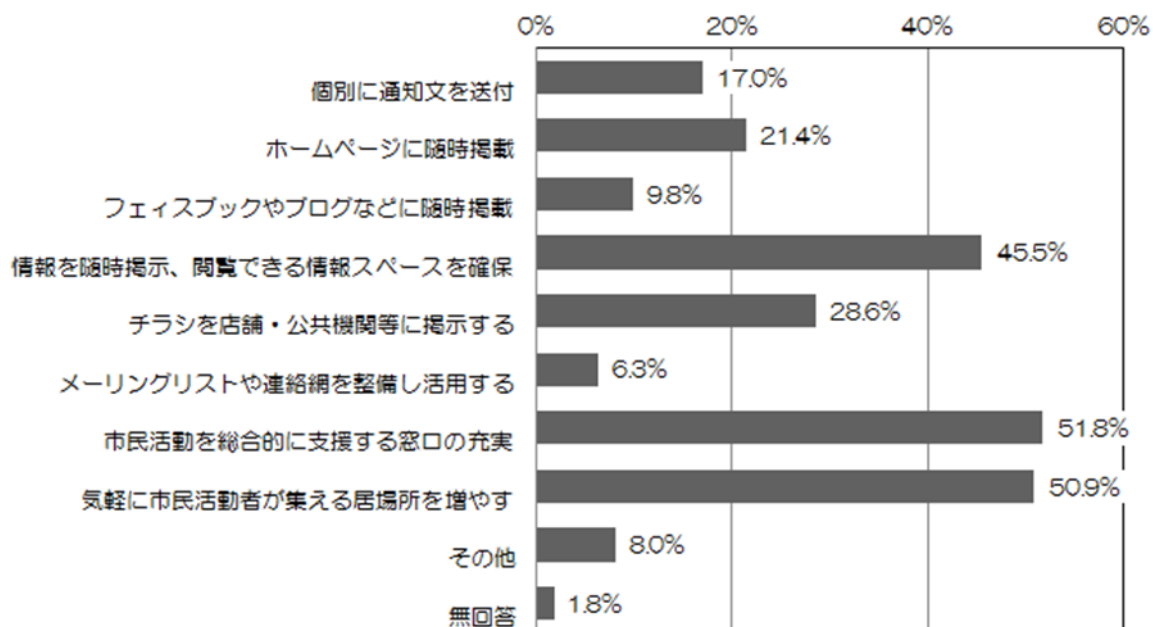
問 26 地域福祉活動を推進するための環境を整備するには、どのようなことが必要だと思いますか。



「地域での取り組み事例や活動の紹介」(26.8%)がもっとも高く、次いで「市民の地域福祉活動の参加促進に向けた広報」(25.9%)となっています。

前回調査では、「地域福祉活動のための財源の用意」、「地域での取り組み事例や活動の紹介」の順でした。

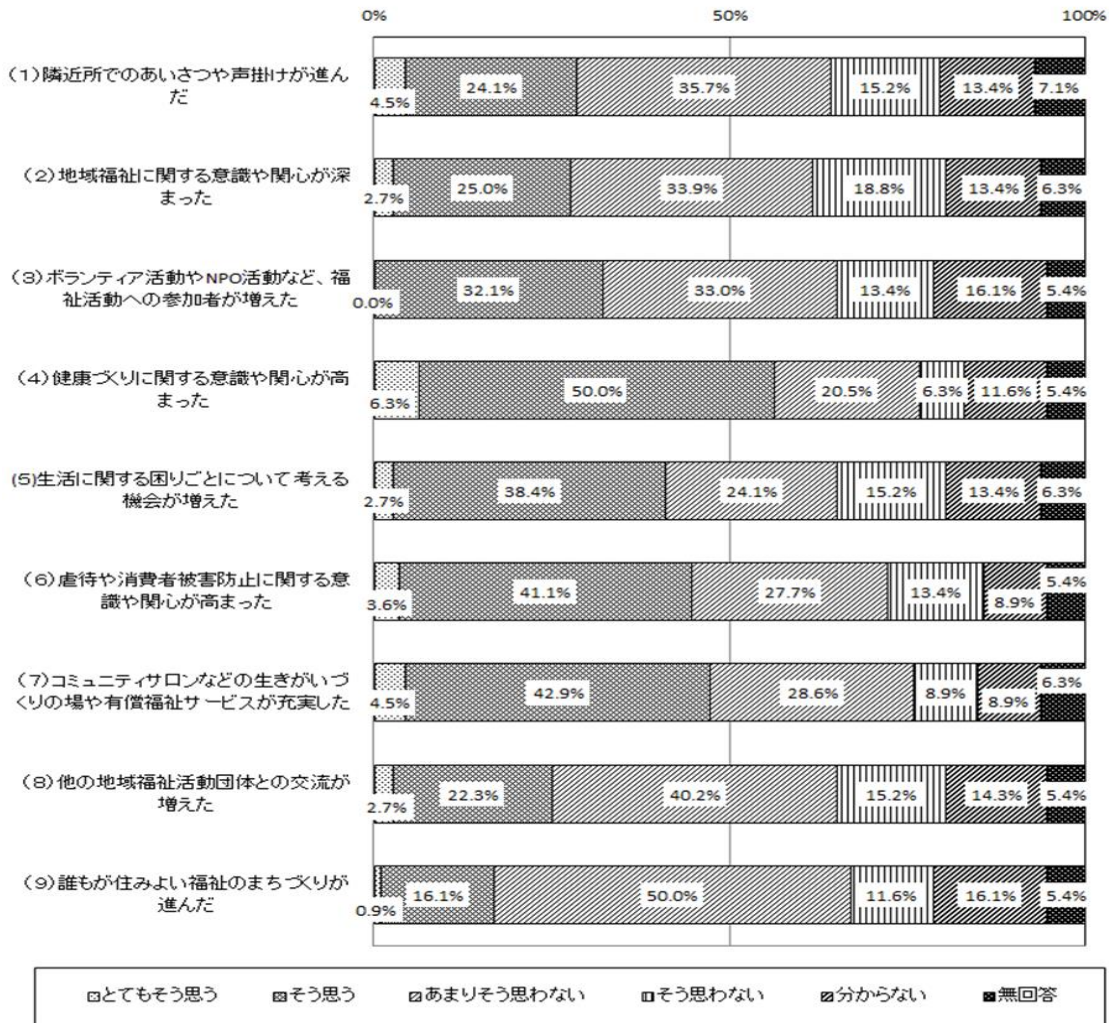
問 27 多くの人が地域福祉活動に参加するための情報提供の方法として、どのような方法が有効だと思いますか。(答え「3つ以内」)



「市民活動を総合的に支援する窓口の充実」(51.8%)がもっとも高く、次いで「気軽に市民活動者が集える居場所を増やす」(50.9%)、「情報を随時掲示、閲覧できる情報スペースを確保」(45.5%)となっています。

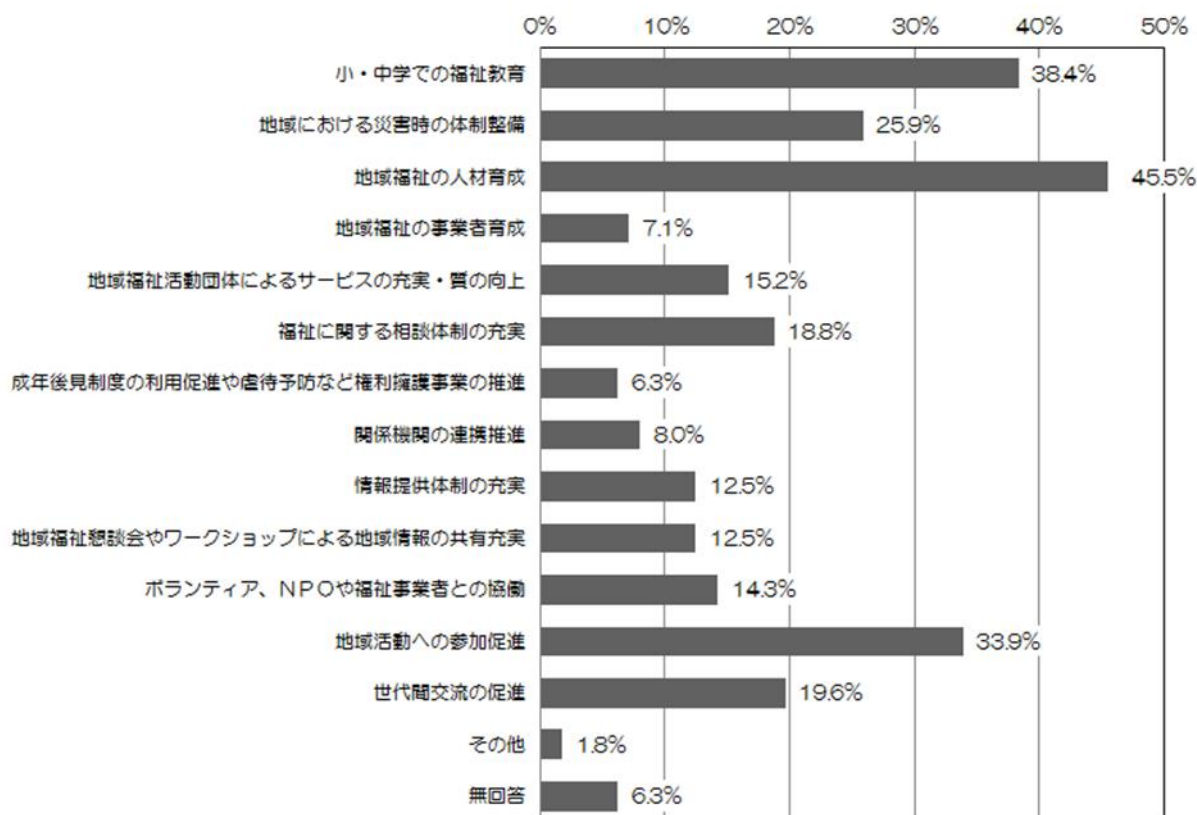
(5) 「地域福祉」の推進状況

問 28 市と社会福祉協議会では、平成27年度からの地域福祉を推進していくための計画として「地域福祉推進計画」を策定し、地域住民・地域福祉活動団体・市・社会福祉協議会の協働による取り組みを進めています。計画策定前と比較をして、次に掲げる取り組みについて、どの程度進んだと思いますか。



「とてもそう思う」、「そう思う」と進捗度が進んだとの回答が、「健康づくりに関する意見や関心が高まった」(56.3%)、「コミュニティサロンなどの生きがいの場や有償福祉サービスが充実した」(47.4%)、「虐待や消費者被害防止に関する意識や関心が高まった」(44.7%) で多く見受けられた。

問 29 今後、地域福祉を充実させるために、市や社会福祉協議会が優先的に取り組むべきものは何だと思えますか。(答え「3つ以内」)



「地域福祉に関連する人材育成」(45.5%) がもっとも高く、次いで「小中学校等における福祉教育の充実」(38.4%)、「地域活動への参加の促進」(33.9%)、「地域における災害時の体制整備」(25.9%) となっている。

(6) 自由意見

問 30 市や社会福祉協議会が取り組んでいる「地域福祉の推進」について、ご意見やご提案、感じていることなどがありましたら、ご記入ください。また、アンケートの方法や内容等についてのご意見や感想等がありましたら、ぜひご記入ください。

主な意見

- 人口減少問題に取り組み、衰退化に歯止めをかけてほしい。
- 現場の悩み、苦勞を汲み取る努力をもっとしてほしい。
- 時間をかけて幅を縮めて行けば良い方向に行くのではないか。取組の地道さが必要である。
- 活動者に対する肩書のようなものがあると良い。
- 各自治会と地域の小学校・中学校、ボランティア団体と社会福祉協議会の連携の機会が必要である。
- ボランティアセンターの機能強化が必要。
- 地域福祉が市民に周知されていない様に感じるので、広報活動に工夫をした方が良い。
- 「形だけやっています」というのではなく、住民主体の福祉政策の構築を望む。
- 福祉担当者が一緒に地域（自治会、支部社協 etc）を廻って狭山市の福祉（市民との共働事業、市民のV活動 NPO）の現状と将来像を語ってほしい。
- 資金を配布すれば誰かが何かをしてくれるだろうとの考えを辞めた方が良い。
- 広く住人が参加出来る体制がほしい。
- あまり外に出たがらない人達の参加増進を進める必要がある。
- 地域福祉に自治会の関わりは大きい。
- 住民との対話できる場として、身近なところにサロンがあることが必要である。
- 向こう三軒両隣の精神は今の人たちには無くなっている。
- アンケート用紙のコピーを保存したいが、紙枚数が多すぎる。

① 市への意見、要望、感想

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none">● <u>問合せの回答</u>になっていませんが<u>市が一番先に取り組むべきは人口減少問題ではないか？</u>多分取組んでいると思いますが。● <u>衰退化に歯止めを！</u>若者に魅力ある街狭山（働く環境の整備）・企業誘致が最優先・地場産業のアピールと活性化”お茶”しかない狭山。● <u>高齢に伴い足が運べなくなったので活動が制限される。</u>活動場所が少ない。高齢者用のグラウンドがほしい。● 民生委員の高齢化問題、待機児童も問題だが待機高齢者も問題、災害時の対策など、いろいろ難しい時代（財政面・人材面で）ですが、周りでの<u>良い変化も少しずつ</u>ですが感じています。 | <ul style="list-style-type: none">● <u>人材不足が悩み</u>だが、市民大学など頼りにならない。何故なら<u>講師が現場（地域の状況）を知らなすぎる。</u>講師の選定に工夫が欲しい。理論や本に書いてることばかりを説明しても地域に当てはまらない。実務経験者が講師になり実際の行動、具体的な内容の説明が欲しい。● 「<u>形だけやっていますよと</u>」見える気もします。● 「<u>地域における社会福祉の推進</u>」である地域福祉に関して、<u>市の積極的な支援、事業への取り組みが見えない。</u>● 当サロンでもでも折にふれ、（孤独死とその対応について）伝えられればと思っております。<u>市の広報に期待</u>しています。● 市民は活動内容をほとんど理解していない、<u>市長自らビジョンを明確にすべき。</u> |
|--|---|

② 社協への意見、要望、感想

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none">● 社協へのお願い：<u>実績作りのため色々努力されているが、あまり実っていない、何故か？</u>自分達の希望だけを吸収している。<u>現場の悩み、苦勞を汲み取る努力をもっとしてほしい。</u>● <u>各自治会と地域の小学校、中学校と社会福祉協議会の連携の機会が必要</u>と思います。 | <ul style="list-style-type: none">● <u>災害は一般市民への協力の依頼をどのようにされたのでしょうか</u>（台風での入舎の被害）全然知りませんでした。テレビで見て人ごとのように感じていました。いろいろな人への声かけ、社協でしていただけたのでしょうか。 |
|---|--|

（次のページに続きます）

<ul style="list-style-type: none"> ● <u>社会福祉協議会とボランティア団体、自治会の連携や話し合いの場が必要</u>と思います。 ● <u>社会福祉協議会が折角取り組んでいる事業について、市民に周知されていない様</u>に感じます。<u>広報活動に工夫を</u>。 ● <u>社協に以前より入り辛くな</u>ったと言う人がいる。二手に分かれており、わかり辛いのか。役所は入り辛いのが普通だけど・・・。 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>社協の活動内容をもっと市から市民へ、広報活動や理解を得られる努力をして下さい</u>。 ● <u>社協自ら足を運び地域福祉団体の活動内容を理解し、実情に合わせた支援体制を構築する努力が欲しい</u>。アンケート後にどのように活動に反映するのか、回答（報告）を望む。 ● <u>ボランティアセンター運営委員会の体質向上</u>。 ● <u>ボランティアセンターの強化</u>。
--	---

③ 市・社協に共通する意見、要望、感想

<ul style="list-style-type: none"> ● <u>時間をかけて幅を縮めて行けば良い方向に行く</u>と思います。 ● <u>地域福祉活動に携わっている人は、ある程度福祉に精通している人がその任を負っている</u>。<u>出来る人と認知される様な制度が出来ないだろうか</u>。（肩書き） ● <u>NPOと名乗りながら首を傾げ</u>たくなる団体もあります。交付金を渡した団体へのその後、内容を追跡確認も大切で、<u>ただ資金を配布すれば誰かが何かをしてくれるだろうとの考えを辞めた方が良い</u>と思います。 ● <u>草の根団体の活用・育成・支援</u>。 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>世代間交流という点では、中学・高校生を捲込む様なイベントを実施する必要があり、その時の主役は中学・高校生で大人は黒子役でサポートする</u>。 ● <u>地域住民に心の病に対する正しい理解を持ってもらう為の啓蒙活動を地域福祉活動の中に加えて欲しい</u>。 ● <u>地域に密着したきめ細かな福祉政策の実現が不可欠</u>。そのためには表面づらの施策から脱却して<u>住民主体の福祉政策の構築が望まれる</u>。必然的に金と人の使い方を机上から現場に、地に足のついた施策が望まれる。 ● <u>専門員が地域に入り込み軌道にのるまでの間、リーダー指導、支援を進める</u>。 (次のページに続きます)
---	---

- 新たな人材確保には、男性の力の活用（家庭から地域へ）をどうするかの仕掛けが必要です。その為の講座を行ってはどうか。
 - 広報活動のお願い：市、社協、包括それぞれの福祉担当者が一緒に地域（自治会、支部社協 etc）を廻って狭山市の福祉（市民との共働事業、市民のV活動 NPO）の現状と将来像を語ってほしい。
 - 地域福祉に関わっている人はどこの会合にでも同じメンバーで、広く住人が参加出来る体制がほしい。
 - 理想の想定ではなく下において自身が体験し考えることが数多く感じられる。下に任せただけでは福祉の推進は出来ない。
 - 一般の狭山市民が、この「地域福祉」の取り組みについてどの程度理解されているか疑問です。身近な自治会などを通して肌で感ずる活動内容が必要ではないかと思う。災害時の助け合い、近所の見守りなど身近なところからしっかり整備して行ってほしいと思います。
 - 地域福祉の推進という言葉が、広すぎて意味が掴めない。何が足りないのか、望まれているものは何なのか、市や社協は利用者、対象者とよく話すべきだと思う。
 - 取組の地道さが必要になると思います。
 - 市や社協では様々な活動に取り組み、他市よりも一生懸命、地域福祉の推進に努力されていると思います。地域福祉と言っても年数はかかると思いますが、その努力は必ず市民の理解に通じると思いますが、水富支部社協もサロンを増やすことに努力していますが何より民生委員や自治会長の理解と学びが必要かと思います。「継続は力なり」です。続けることに意義があると思います。
 - 地域福祉・社協に対しての市民の認知度が低いと思う。周知してもらう為の活動が必要性感じます。
 - 人間関係が希薄になってきている現代社会の中で「地域福祉の推進」の効果をせppかちに求めるのは無理と感じます。
 - 障がい者は活動範囲と共に情報を得られる範囲も狭くなる。従って情報提供に積極的に取組んで頂きたい。
 - 障がいの種類により情報を得られる方法が異なるので、障害に合った方法を使ってほしい。
 - 同じ障がい当事者の交流は特に実効性が高いので、そうした機会を作ってほしい。
- （次のページに続きます）

<ul style="list-style-type: none"> ● 限られた人達は、<u>地域福祉推進に協力的だが、あまり外に出たがらない人達の参加増進を進める必要があるのでは。</u> ● <u>支え合いマップ</u>などの活用。 ● 高齢者の大多数はボランティア活動などの社会福祉に貢献していないと思います。このような人達に活動して頂くための<u>情報・広報活動を強化して頂きたい。</u> ● 「<u>地域福祉の推進</u>」活動が、活発になるにつれて、地域の要支援高齢者に対する対応が変化してきた。 ● 理念としては理解できます。そうした<u>提案が具体化して行く事を望みます。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市民に声が届いていないので、<u>広報を充実して活動を広げて欲しい。</u> ● 自分の未来はご近所の支え合い、向こう三軒両隣にあるんだと自覚してもらう様な <u>PR が必要だ</u>と思います。 ● 市民に<u>積極的に</u>取組みの<u>情報をお知らせする。</u> ● 地域福祉推進活動が実際にどのように進められているか<u>具体的に</u>広報・PR が十分とは言えない。 ● 介護・認知症予防、健康寿命の延伸など、<u>これからの福祉は地域単位で考えなくてはならない状況</u>です。
---	---

④ **自治会や民生委員など地域福祉活動団体への意見、要望、感想**

<ul style="list-style-type: none"> ● 活動者の輪の広がりは見られるが、どちらかという、<u>民生委員・自治会役員・その経験者に</u>限られている部分が多いと感じる。 ● <u>地域福祉に自治会の関わりは大きい</u>と思います。会長だけでなく（班長さんは、その時だけの仕事をして 1 年の通過を待つ人が多い）なるべく多くの人に地域の高齢化などの情報を流して、介護保険の見直しにより今までの様なサービスが受けられない等の福祉への危機感を訴える機会を持っていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>地域福祉推進は、地区ごとの自治会により世帯単位に直接に浸透させて行くというビジョンを持つことが必要</u>である。自治会は各々の規約の下で地域の為に自主的に活動を行っており、地域のコミュニティづくりには欠かせない組織として市内の多くに定着しています。<u>市と自治会連合会の枠組みの中で組織的に取り組んで頂くことで世帯単位に浸透が一層期待できるのでは。</u> ● <u>自治会との連携強化。</u> <p style="text-align: right;">（次のページに続きます）</p>
--	---

<ul style="list-style-type: none"> ● 自治会の取組などかなり進んでいるように感じます。<u>地域での取組みが大切</u>だと思います。(自治会など) ● サロンネットワーク協議会に参加させて頂き、様々なつながりができて感謝しております。<u>人と人とのつながりが地域の要</u>だと思います。これからもよろしく願いいたします。 ● 沢山の人達に支えられていることを実感しております。笑顔で楽しみながら自分で出来ることは精一杯させて頂きたい。<u>人とのふれあいを大切に</u>しながら・・・。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢の一人暮らしになると淋しいとの声が多く聞かれる今日この頃、<u>住民との対話</u>が求められている。地域福祉の一端のサロン活動を大変楽しみにしている高齢者が多い。体調を崩し家に引きこもると外出し辛く、私たちの方で声をかけ合って戸外へと導く。会話することで人々は明るくなる。そのきっかけがサロンですね。<u>身近なところにサロンがあることが必要</u>です。
---	---

⑤ **地域住民への意見、要望、感想**

<ul style="list-style-type: none"> ● <u>個々の福祉に関する意識は高くなった</u>と思います。<u>ボランティア活動など参加者は増えています</u>。しかし身近な所では隣近所の住民の顔も分からない、あいさつもしない等、まだまだ問題は多々ある様です。<u>向こう三軒両隣の精神は今の人たちには無くなっています</u>。 ● 一部の人が関心があるのではなく、<u>住民の半数以上が関心を持ってほしい</u>。 ● <u>若者が支援を申し出て積極的に高齢者の見守りを推進して行こうと云う意志が見て取れる</u>。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 昨年 7 月の地活研以来毎月活動しているが、三郷市職員の孤独死についての提言に感銘を受け、重要な問題として、<u>常日頃の相互助け合い、コミュニケーションこそ如何に大切な自己防護だと感じた</u>。 ● 社会情勢が便利な品物を求めて取り入れた生活が<u>人々と交わらない日常が多くなってきた</u>。 ● <u>先ず身近な所から思いやりの気持ちを持ち、接して行ければ地域福祉に繋がっていくのではないのでしょうか</u>。
--	--

⑥ アンケートに対する意見、要望、感想

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none">● アンケートの回答は別紙に記入する方式が良いのでは。何故ならばどう回答したか、この用紙のコピーを保存したいが、紙枚数が多すぎる。● <u>障がい</u>に合ったアンケートの実施（視覚障害者には点字拡大文字を使う） | <ul style="list-style-type: none">● このアンケートも意味があるものなのか、意図することが何なのか、何を知りたいのか、良く分からない。市や社協は他力に甘え過ぎではないか。● 全ての質問は、<u>ボランティア団体</u>向けなのでしょうか？（民生委員向けの質問ではないと思います。） |
|--|--|